

JTU-HYOGO  
兵庫高等学校教職員組合  
日本教職員組合(日教組)

# 兵高教新聞

裏面紹介

◆兵高教第34次教研第2分科会報告  
◆2024年度公立高校募集計画発表 他

神戸市中央区中山手通4-10-5 神戸市教育会館内 TEL078-261-0829 FAX078-261-1094 E-mail:hyokokyo@pearl.ocn.ne.jp

発行人:西村恭介 編集:兵高教書記局

## 10/26 連合兵庫第19回定期大会開催

＝社会を新たなステージへ、ともに歩もう、ともに変えよう～仲間の輪を広げ 安心社会をめざす～＝

### 大会宣言

私たちは、本日、第19回定期大会を開催し、新たな役員体制を確認するとともに、向こう2年間の運動方針を確立した。

わが国は、不安定な雇用の拡大、格差・貧困の広がり、労働力人口の減少など構造的な課題が深刻さを増す中、現下の物価上昇が国民生活を圧迫している。こうした中、働く仲間の声と力で、誰もが将来に希望をもって働き生活できる社会へ変えていかなければならない。私たちは「人への投資」と継続的な賃上げ・格差は正の力強い推進、そして、安心社会につながる政策・制度実現の取り組みに、より一層まい進していく。

私たちは、組織人員の減少を反転させ、集団的労使関係の輪を社会の隅々に広げるため、組織の拡大・強化に総力を挙げて取り組み、同時に連合運動への理解・共感・参加を広げ、社会からの期待にこたえていく。また、あらゆる運動におけるジェンダー平等・多様性の推進、社会的発信力の強化に一層力を入れるとともに、連合運動の再構築と基盤強化に向けた改革パッケージを着実に実践していく。

世界では、長期化するロシアによるウクライナ侵略やパレスチナ問題などの国際紛争やミャンマーなどにおける人権・労働基本権の侵害、国内においても未だ、部落差別、えん罪事件、外国人労働者に対する人権侵害や労基法違反、ジェンダー不平等、いじめなど、人権にかかわる問題は後を絶たない。私たちは、平和、人権、民主主義をまもるべく、あらゆる差別、人権侵害の撤廃に向け、多様な主体と連携しながら取り組みを推進していく。

私たちは、改めて、連帯の力で社会の不条理に立ち向かい、弱い立場にある人々とともに闘う決意を共有し、社会を変革し危機を克服しなければならない。私たちは、大会スローガンである「社会を新たなステージへ、ともに歩もう、ともに変えよう～仲間の輪を広げ安心社会をめざす～」のもと、すべての働く仲間にとって「必ずそばにいる存在」として、組織全体で思いを一つにし、労働組合の社会的価値を広く訴えながら、力強く運動を進めていくことを、ここに宣言する。

2023年10月26日  
連合兵庫第19回定期大会



福永会長あいさつ



連合兵庫第19期役員のみなさん

10月26日午後、神戸メリケンパークオリエンタルホテルにおいて、連合兵庫第19回定期大会が開催されました。兵高教からは兵庫県教職員組合協議会(兵高教協)の代議員として、西村執行委員長が出席しました。

新型コロナウイルス感染症による制限がなく、4年ぶりの完全参加形式となった本定期大会には、代議員・特別代議員・執行委員、計250人が出席し、うち女性出席者は60人・女性比率24%となりました。

冒頭、福永明連合兵庫会長はあいさつの中で、労働災害の撲滅に向けた強い決意を表明した上で、「集団的労使関係の追求」「ジェンダー平等・多様性推進」「政治活動」の3点について、現状認識と課題および連合兵庫のとりくみについて触れました。そして「自己責任論が強調され、分断・孤立が進み、連帯の喪失が蔓延するなかにおいて、不安定雇用の拡大、格差の拡大、貧困の固定化、セーフティネットの脆弱さなどの構造的な課題を抱える現下の情勢だからこそ、『弱い立場にあるすべての労働者が、協力、連帯してこそ不条理に立ち向かえる』というかつての連合評価委員会の提言を運動の基底に据え、『誰もが将来に希望をもって、働き生活できる社会』をめざしていきたい」と決意を述べました。

議事として、まず「2023年度一般活動報告」「2023年度会計決算報告ならびに余剰金処分(案)について」「2023年度会計監査報告」の3点の報告があり、続いて「第1号議案 2024年～2025年度(第19期)運動方針(案)に関する件」以下第6号議案まで提案され、協議が行われました。

コロナ禍で露呈された社会の脆弱性や貧困・格差の拡大、またロシアのウクライナ侵略によるエネルギーや材料価格高騰による物価上昇は、弱い立場にある人々に、より深刻な影響を与え続けています。23春闘では30年ぶりの賃上げ水準を獲得することができましたが、いまだ物価上昇には追いついておらず、実質賃金は低下の一途をたどっています。

連合兵庫は、誰一人取り残すことのない「包摂」を基底に置いた「働くことを軸とする安心社会」の実現に向け、『社会を新たなステージへ、ともに歩もう、ともに変えよう』仲間の輪を広げ、安心社会をめざす』をスローガンとした2024年度・2025年度運動方針を全体で確認するとともに、第19期役員体制を確立し、新たな運動年度をスタートしました。

※私たちは連合を通じて、教職員だけではなく様々な産業・職種の働く仲間とつながっています。

兵庫高等学校教職員組合(兵高教)は、《JTU日教組》加盟の組合で、1989年に設立しました。  
※「兵庫高教組」「兵高教組」「高教組」(兵庫県高等学校教職員組合)とは、関係ありません。

兵高教第34次教育研究集会(10月14日)

分科会の概要

※前号の続きです

◆第2分科会「今日の教育課題」

①生徒の自己実現を叶える魔法「総合的な探究の時間」

河邊文哉さん(阪神支部・武庫荘総合分科会)
「総合的な探究の時間」は生徒自ら探究活動を設定し、主体的・協働的課題を解決し、探究力を身につける課題解決的な学習活動である。1年次の「産業社会と人間」で自分を知り、2年次は、1年次で発見した自分の興味関心と、社会問題とを結びつける力を育むとともに、アントレプレナーシップの精神を養いたいと考えている。社会と生徒をつなげる活動であり、まず経験してみることで大切。

◆3年間を通して育みたい力は、「新しい基礎学力」の定着である。「新しい基礎学力」とは、4Cs(批判的思考と問題解決・コミュニケーション・共同・創造性と変革、21世紀スキル・パートナーシップという団体が提唱)である。

◆探究活動の中で最も大事なことは、調査活動であり、ゼミ決定の際に、生徒がわかりやすいよう各ゼミの目標の明確化を行った。また、調査活動を活性化させるために、地域の協力が必要と考え、尼崎ユース交流センターの職員の方がたの協力を仰いだ。4月から5月にかけて、職員の方がたに3日間来校していただき、3日目には約4分の1の生徒が連携により調査活動(こども食堂への取材・薬剤師訪問・地域ボランティアへの参加)につなげることができた。

本校では「総合的な探究の時間」の満足度が高い。成果が出るとさらなる探究に結びつく。今後の課題として、校内での発表に留まらず、生徒が多いことから、生徒が外部で発表する手助けや外部で発表したくなる工夫の必要を感じている。



②東大二次日本史問題を教材にした探究授業の試み

吉水公一さん(阪神支部・西宮今津分科会)

◆2022年度から「歴史総合」、2023年度より「日本史探究」が開講された。アクティブラーニングなどを取り入れ、知識定着だけでなく、主体的・対話的・共同的な深い学びを通じて、歴史的思考力を身につけ歴史事象を探究し、現代的課題に対応していくことが求められる。教材を通して、教える側の軸は必要。教員にとっても「問いを立てる」ことは難しいのでは?

③生徒指導から生徒支援へ

阪本真人さん(阪神支部・西宮甲山分科会)

◆昨年12月に生徒指導提要在12年ぶりに改訂され、「生徒指導の取組上の留意点」の留意点として「児童生徒の権利の理解」という項目が設けられ、生徒指導を行う上で、子どもの権利条約の4つの原則(差別の禁止、子どもの最善の利益の保障、生命・生存・発達への権利、意見表明権)を理解しておくことが不可欠とされた。しかし、実際の教育現場では旧態依然の生徒指導観に基づいた生徒指導が行われているのではないだろうか。

◆自分自身、「生徒は言うことを聞かさないといけない。そのために最初は厳しく接していくことが大切だ」という先輩の教えをうけ、着任当初は生徒に厳しく、時には大きく声を荒げて接する場面があった。しかし、生徒たちには全く通じず、むしろ徐々に反抗的になっていった。

同じ学年に、私は全く真逆で生徒からの信頼が厚い先輩教員がいた。着任後、自分の生徒指導のあり方に違和感を覚えて以来、その教員と私とは何が違うのか毎日考え、生徒一人ひとりに寄り添い、個々にあったアプローチを考えながら生徒と接するようにしている。この関わり方について、「甘い。緩い。」と意見する教員は多い。しかし、私は教員である以上、生徒が1つでも多くのことを学校で学び、少しでも困りごとを解消できるようにするために、生徒「支援」の視点でアプローチを続けようと思つた。

2024年度

公立学校生徒募集計画発表

||全日制1学級減、定時制・多部制は増減なし||

兵庫県教育委員会は、10月23日、2024年度の公立高等学校生徒募集計画を発表しました。募集計画の策定にあたって、兵高教は兵教組と連携を取りながら、高校教育改革の進捗状況や各学区の抱える課題解決を基本に据え、全県的・中長期的な視野に立つてとりくみをすすめてきました。

2023年度末の県内の国・公立中学校卒業見込者数は2022年度末に比べ91人減少し、県内公立高校進学希望者(9月1日現在)は158人減(全日制187人減、定時制・多部制31人減、通信制60人増)となりました。内外情勢の影響や急激な円安進行により諸物価が高騰する中、所得の二極化はさらに進行しています。兵高教はこれまで全日制高校、定時制・多部制高校の開門率を引き上げること

強く要求して折衝・交渉を積み上げてきました。

その結果、県財政が極めて厳しい状況にある中、全日制課程については1学級減(第1学区で北須磨1学級増、第3学区で明石西1学級減、加古川北1学級減)、定時制・多部制については学級数の増減はなし、通信制課程の募集定員も増減なしとしました。生徒数が大幅に減少する中でも、特に定時制・多部制・通信制課程の進学希望者数は高止まりの傾向が続いています。今後は、広域通信制課程等への進学希望者の増加傾向が続いていることも注視しつつ、多様な生徒の学びに対応できる、インクルーシブな学校づくりをさらに進めていくと取り組む必要があります。私たちは、厳しい経済状況・生活環境の下におかれながら高校進学を希望する人たちの願いを受け止め、今後も、「すべての希望する人に後期中等教育を保障する」ためのとりくみをすすめます。(詳細は、10月23日付「速報」No.6参照)

第28回日教組近畿ブロック青年部交流学習会

日程 2024年1月6日(土)
開会行事 13:00~13:30(受付12:30~)
学習会 13:30~15:15
講演「学校園の在り方を問う -すべての子どもたちのための学校園とは-」(仮)
講師:池田賢市さん(中央大学文学部教授)
分科会 15:30~18:00
夕食交流会 19:00~21:00
2024年1月7日(日)
分散会 9:15~10:45
閉会行事 11:00~11:45



分科会詳細↑

会場【学習会】ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)
〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20
TEL:077-527-3315
【夕食交流会】大津びわ湖畔 アヤハレークサイドホテル
〒520-2321 滋賀県大津市におの浜3-2-25
TEL:077-524-2321

※一部のみ参加も可能です。分科会については、上記二次元コードより分科会紹介をご確認の上、第3希望まで選択してください。託児サービスもあります。お子さま連れでの参加も可能です。詳細は書記局にお問い合わせください。